

うちの
みんなで
読んでね

報恩講のころ

**報恩講というのは、私たちの浄土真宗を開き下さった
親鸞聖人のご命日のことです。**

●ところで、聖人のひ孫覚如上人（聖人が亡くなられて8年後にご誕生）が、聖人の33回忌法要の時に、私たち一人一人がお念仏を大切にせねばならないことを、立派な文章にして聖人のご真影の前で拝読されました。この文章のことを「報恩講式」（私記）と呼び、これが報恩講という言葉の始まりです。

これ以来西本願寺では、ご正忌報恩講（1月9日～16日）のご満座には、ご門主自らが読誦されます。全国の寺院は勿論、門信徒のご家庭でも毎年秋から冬にかけて、報恩講法要をお勤めしてまいりましたが、これは宗祖親鸞聖人を敬いそのご恩に感謝する門信徒ならではの美しい営みであります。

●報恩講法要は一般に、正信偈を中心としたお勤めが行われますが、この正信偈は親鸞聖人がご自身の信仰・お念仏のみ教えを分かりやすくお示しになったものです。また、法要にあたってはお仏具のお磨きなどをして、お仏壇を美しくお飾りします。以前には、親戚や近所の子どもも招待して、ごちそうをふるまったりしましたが、そういう風習も少なくなってきましたのは残念なことです。

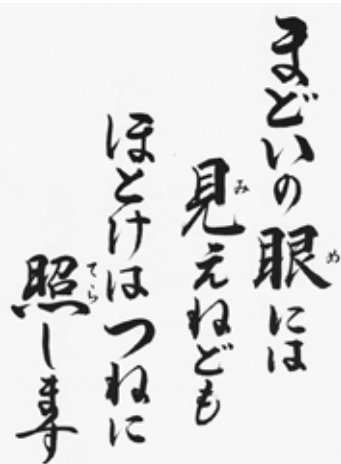


7月、葬祭業者の初盆&終活行事に超宗派の僧侶らで出仕。



飯盒炊飯にトライする福島の子どもら。
おにぎりにして交流会に提供。（禅林寺）

しかし、この報恩講を一回一回積み重ねていくことによって、人々は本当の念仏者に育てられてゆくのです。私たちは、できるだけこの法要のご縁に会い、聖人の教えに出会うことを大事にしたいものであります。（出典 仏教家庭学校他）



常に我が身を照らしたまふ」という文によられたものです。

九歳で比叡山に登った和尚は英才の誉れ高く、しかし母の戒めに従って高位を求めず日本浄土教の大成を図られました。自身については「予がとき頑魯(かたくなで愚かな)のもの」と述べられ、また「極重の悪人は他の方便なし。ただ仏を称念して極楽に生ずることを得」と往生行の要点を鮮明に示されました。

名利と自己に執心する我欲の心(惑)は、思い通りにいかぬ故に怒りとなり、愚かしき言動となつて表出し(業)、他を傷つけ自らも蝕み、新たな苦悩をさらに呼び起こしていきます。こうした無知の行為と結果が連鎖してとどまることなく循環していく、そのことに無自覚であるが故に愚悪・極重の悪人と言われるのです。

『教行信証』に「まさに知るべし、もろもろの衆生は如来の子なり」とあるのは如来による同悲同苦の慈悲の働きです。自然の道理を知らず、驕り高ぶって仏法の恵みを素直に受け入れられない愚悪な私が、もし誰からかえりみられなかったとしても、たった一人の親が決して見捨てることはできないと、常に私のために存在してくださることほど、頼もしく安心できるものはありません。(引用「月々のことば」)

◆今回は、七高僧第六祖・源信和尚(僧都)を讃仰された、正信偈の「煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我」の意訳です。これはもともと和尚が著した『往生要集』の「われまたかの摂取の中にあれども、煩惱、眼を障へて、見たてまつることあたはずといえども、大悲倦むことなくして、

教えて！
お坊さん
⑧

「終活って、後の人に迷惑かけないようにするため？」 ……

近年、終活とかエンディングノートや墓終い、葬儀・供養などに関する報道をよく見かける。関連業者が集まるイベントも大小あり、県内でも大手葬祭業主催のイベントが今夏開かれ、僧侶の相談コーナーでは葬儀についてのご相談も受けた。

勿論、葬儀の執行や墓地、相続や諸手続きなど事務的なことは、後の人が迷うことのないよう調べたり確認しておくことは大事だ。しかし当人の思いと、子供や兄弟の思いがすれ違うことも当然で、当人や家族が良かれと思っても実際の場面になって困ることも起きうる。家族だけで手短に葬式を出しても、寂しさ物足りなさに後悔することになったり、海山へ散骨したはいいが、後で手を合わす標がないため戸惑うこともあるだろう。

終活の反対語は「生活」ともいうべきか、結局日頃の生き様・人生観が問われてくる。突然のお別れは勿論、延命や介護の問題など生死の局面はいつ表面化するかわからない。頭も体も衰えてきた時、ますます頑固になるか可愛らしくなるか、疎まれるのか感謝されるのかで、周囲の人に大きな影響を与える。もし後の人に迷惑がかからぬようと本気で考えるならば、普段どんな言葉を発し、どんな態度を取り、どのような心がけをしてきたのかを省みた方がよい。人生に仏の教えがしっかり活動して、自らを律し責任転嫁せず、悔いなく生き切ろうとする姿が、周りから慕われ、惜しまれ、尊ばれるのではないか。

「福島子どもサマーキャンプ2016 無事終了！」

◆この夏も、福島子どもサマーキャンプが7.25～8.1の七泊八日で開かれた。浅水地区徳尾町・禅林寺と国見地区鮎川町・西養寺を両会場に、子ども達12名とスタッフ約100名が集い、真夏の集団生活も無事終了した。

震災から5年が経過し、当時小学1年生は6年になり、リピーターは減って新規の方が7名参加。東京都内から自主避難で暮らす男子も、祖父母宅のいわきからバスに乗った。母子家庭で、慣れない土地での避難生活は相当にストレスfulな様子が事前のメールからも伺える。

今回の日程は、あまり企画を入れずゆるい内容となった。昨年から始めた、徳尾町の方を招いた夕食交流会、鮎川町近辺での一泊ホームステイのほか、子ども達を主にスタッフも入ったの「みんな会議」と、ちょうど期間中に催された「国見地区夏祭り」への参加、最終夜にはホストファミリー8家族を招いた「お別れ夕食会」を行い、それぞれ美味しい食事と交流を楽しむことができた。

しかし何と言っても子ども達の一番人気はプール遊びと海水浴だ。毎年の鮎川海水浴場で、岩場から嬉々として飛び込む上級生ら、生き物探したりスタッフと遊んだりの姿を見ると、もっと長く時間を取ってあげたいと思うし、我々大人も皆で一緒になっての海遊びは、楽しさがまたひときわ格別だ。

もちろん、安全確保と様々な段取りには念入りな準備と打ち合わせが必要だし、浜での見守り隊含め、スタッフらの動き方にも気が抜けない。子ども達の中では、皮膚が弱かったり喘息持ちの子もいて、やはり後半海水浴で調子を崩す子も数名出て、臨機応変に対処しなくてはならない。

今年は我々にも慣れが生まれたり、中心スタッフに負担が偏ったりと、今後の課題も明らかになったが、屈託のない子ども達が多く逆に救われた。物資支援やカンパなどご協力いただきました皆様にこの場にてお礼申し上げます。



海へジャンプ！気持ちいい～～！



大賑わいの国見地区夏祭り。スタッフも出店し、北陸高校和太鼓部も演奏！



ホストファミリーの中には、福島県伊達市出身の方もいてご挨拶。(西養寺)



スタッフたちに、バスの中からお別れ！

「サマーキャンプ2016 アンケートより保護者の方の声」……………

■（いわき市 Sさん）我が家は以前と変わらない暮らしに戻りました。ただ当時は子供たちは気持ちに落ち着きがなく、揺れを感じるたびにストレスで全身をかきむしり、アトピーが再発。半年ほど続きました。

なんだか当たり前になってしまった習慣というのか、以前になかったやりとりとして「部活動で使う麦茶、水道のでいい？」「頂いた野菜、産地とか気にしないなら持っていく？」「埃も立つし（放射能）怖いから、お弁当、車の中で食べようか？」など.. 普通になってきてますが、やっぱり変です。

■（いわき市 Mさん）当初心配していた子供たちの健康被害もなく（学校にて毎年検査していて）、親として安心しています。

報道では原発事故が大きく取り上げられがちですが、いわき市に限れば津波や地震の被害の方が深刻で、未だに娘たちの通う学校の耐震工事が進んでいません。5年を経た今も余震が頻繁にあり、その点はやはり心配です。

■（いわき市 Kさん）放射能の数値も以前から比べると下がってきました。私たちの生活は、震災前と比べて変わらず生活しようと思っていますし、思わなければ生活できません。でも福島原発で収束作業をしている限り、不安は消えないと思います。

福島海では、やはり不安で海水浴には行けません。このサマーキャンプがなければ、子供たちは海水浴をする機会がなかったと思います。とても感謝しています。

■（白河市 Kさん）子供たちには敏感になってほしくないと思う部分と、放射能・原発事故のことは忘れないでほしいという二つの思いがあります。震災直後の状況を、「福島の子」と言われていた時のことだけは思い出してほしくないです。

■（郡山～府中市 Iさん）東京で慣れない生活の下、母子でやっていくことが不安で、いわきの実家に戻ることも考えました。でも5年経った今でも実家の除染はされていません。父は食物の汚染には無関心で、食卓には福島産のきのこ、山で採れた山菜、庭で育てたイチゴが並びます。帰省で少し行っただけでも、今すぐ子供を連れて帰りたくなります。

こんな中で暮らして行ける自信はなく、東京での生活を継続していますが、本当は実家に帰りたいです。私の仕事が忙しく、子供が一人でいる時間も無理をさせることも増え、生活はさらに厳しくなりました。

原発事故さえなければ！といつもいつも思います。東電や国、県に言わせると、離婚した親子はもう避難者ではないそうです。悔しいです..。こんな母子が東京や全国の避難者の中に沢山生まれています。

仕事上、夏休みも旅行へ連れて行ってあげるなんてことは不可能で、子供の健康も心配で..。サマーキャンプを本当に楽しみにしていました。少しでも息子の気持ちが解放されればと思います。安心な場所で、賑やかに、安心なものを食べさせていただけることに、本当に心から感謝しています。



「おてらおやつクラブ」に登録！～お供えのおすそ分けを子供達に

◆9月、知人の寺院で福井初の説明会が開かれ、自坊も登録させていただきました。特に真宗寺院では報恩講など繁忙期に、お供えでいただいたお菓子や果物がどうしても残ってしまいがちです。一方で相対的貧困が社会の中で広がり、満足な食事が取られない子育て家庭が、**全国平均で6分の1に達するとされ、福井県でも5.5%の子供が該当する**そうです。そのような家庭を支援している団体は県内にも二団体あり、お寺から仏様のお下がりとして支援団体を通じ、そのような子供達へ届けてもらうのがこの活動です。



(福井新聞より)

奈良県の本願寺派住職が発案して始まり、今や**全国47都道府県約440ヶ寺が賛同・協力しており、約4000人の子供達が支援**を受けています。そのため、支援家庭とのマッチングは会の事務局によって、所在地近県へ送付する場合もあるとのこと（送料は寺院負担）。また、**賞味期限は二週間以上**が基本です。

今後どのような展開になるかまだわかりませんが、少量でも継続が大事とのこと。是非お同行の皆様にもご理解をいただき、ご協力のほどお願い申し上げます。なお、募金箱も設置しました。運営費のカンパも大歓迎です。<http://otera-oyatsu.club>



思いやりというのは案外難しい。人生経験を重ねたとしても、人としての器・人徳がどのくらいかは、育んだ人間関係が証明する。言うべきことをきちんと伝えるのは、相手の心情を慮ることと同じ。己のことは棚に上げ、口うるさく恩着せがましく、昔のことをすぐに持ち出しては嫌がられても当然。仏様に会った謙虚さ、慈悲の心が人間の不完全さを許せる度量に通じるだろう。平生、見直したい。

菜根譚 前集一〇五（祐木亜子訳）

人を責めない
良い人間関係を築くための
必要な心がけは三つある。
・小さな過失を咎めない
・隠したい私事を暴かない
・過去の汚点をいつまでも覚えていない
これらを頭に入れて人付き合い
合えば、自らの人格を磨くことができるだけでなく、
恨みを買うこともない。

「私にも出来た！兵児帯ドレス」

◆下にも書きましたが、九月に寺族婦人会移動教室があり、そこで手作りの「兵児帯ドレス」を着ることになりました。当日までに一人一枚ずつ手作りしてくるようになったのです。

兵児帯ドレスとは、家で眠っている男性用の浴衣帯をリサイクルして作ったドレスのことです。見本と製図をもらいましたが、実はお裁縫は苦手で「よし作ろう！」と決心をするまでに三ヶ月かかりました。



ところが、いざ作ってみると直線に縫うだけなので、思ったよりも簡単にできました（それでも丸一日かかりましたが）。用意するもの兵児帯一枚、バイアステープ。

作り方は、1) 帯を二つに折り、輪になった方を切り取り首を出すところを作る。2) 首回りにバイアステープをつける。3) 肩の部分を斜めに縫う。4) 脇を縫う。5) 裾を三つ折りにして縫う。

裾の長さは短くしたりと好きな長さにできますし、ベルトでブラウジングしたりブローチを付けたりとアレンジを楽しめます。兵児帯はリサイクルショップで安く買うこともできます。もし眠っている浴衣帯があればどうぞ作ってみてください。(C)

まったりカフェ：映画 de 仏教ですか？

10月22日（土）午後1時半～4時頃 / 報恩寺
「あなたへ」（日本、高倉健） 定員10名 無料

*美味しいコーヒーを自由にいただきながら映画鑑賞。
宗教文化をひもとき、感想など語り合いましょう。出入り自由ですが要予約。（映画は一部分の場合もあり）

ミニ法話とクリスタルボウルの夜 vol.4 ～お話と音楽でゆったり深まる秋～

10月28日（金）夜7時半～9時頃 / 報恩寺
出演：坂井美貴氏 定員15名 参加費1000円

*天から降りてくるような音色と波動を浴びて、体の芯からお休みください。日頃の喧騒も忘れ、呼吸もゆったり。ミニ勤行と法話も織り交ぜます。お茶お菓子あり。



★いずれも申込：住職携帯 090-9765-1343

雑記 去る九月七日、福井教区寺族婦人会の移動教室がありました。移動教室とは、県内の坊守さまたちが集まり（約百五十名）、浄土真宗のみ教えや現代のお寺のあり方について学び合う会のことです。今年は丹生組が十年に一度回ってくる当番の年で、私も実行委員として関わらせていただきました。
約一年前から企画を練り、講演会や演劇の上演を行いました。わからないことだらけで、当日は不安と緊張の入り混じった日を迎えましたが、組内三十名ほどの坊守さまたちが力を合わせて、おもてなしの一日を作り上げたことに感動しました。(C)